



学校教育目標

寺尾中学校

- 校訓「自主」「剛健」「敬愛」
- ・自ら考え学習する生徒
 - ・心身ともに健康な生徒
 - ・情操豊かな生徒

寺尾小学校

- ・すすんで学ぶ子 ~めあてに向かって粘り強く学習できる児童
- ・心ゆたかな子 ~自分を大事にすると同時に他人を思いやる児童
- ・元気な子 ~進んで身体を動かし、心身ともにたくましい児童

目指す子ども像

粘り強く学習に取り組む、自分の考えを表現できる子ども

積極的に人と関わり、自信をもって行動できる子ども

進んで身体を動かし、心身ともにたくましい子ども

各発達段階で身に付けさせたい力 ~9年間を見通した指導~

中学校	中3 中2	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって、計画を立て、必要に応じて修正しながら、課題の解決に取り組むことができる。※課題解決能力 ・根拠を基に、自分の考えを相手に分かりやすく説明できる。※思考力、判断力、表現力等 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場の人と(高齢者、幼児、異性、先輩、後輩、地域の方々など)相手を尊重し積極的に関わることができる。※積極的に人と関わる力 ・自己理解を深め、経験に基づき正しいと思うことを実践することができる。※人間関係における実践力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で目標を設定し、積極的に体を動かすことができる。※運動に対する意欲 ・自分の力を信じ、何事にも明るく前向きに取り組むことができる。※自己肯定感(自己を肯定する力、たくましさ) ・自らの健康課題の解決に向けて、実践を継続して取り組みながら食習慣や生活習慣を整えることができる。
	中1	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい課題にもあきらめずに最後まで取り組むことができる。※学習に取り組む意欲(力) ・理由をつけて自分の考えを、自分なりの言葉で伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聴き、意図を理解した発言や行動をすることができる。 ・授業における学び合いや学校行事等の話し合いの場で、よりよいものになるような意見や考えを提案したり発表したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で目標を設定し、積極的に体を動かすことができる。※運動に対する意欲 ・自分の力を信じ、何事にも明るく前向きに取り組むことができる。※自己肯定感(自己を肯定する力、たくましさ) ・仲間と認め合いながら基礎的な体力を身に付け、粘り強く挑戦することができる。 ・知識を生かしながら実践を通して、自らの健康課題に気付くことができる。 ・体づくりに必要な栄養素や食べ方を知ることができる。
小学校	小6 小5	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にあきらめずに最後まで取り組むことができる。 ・手本をもとに、自分の思いや気持ちを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれの話しでも、正しい姿勢で最後まで聞くことができる。 ・授業における班活動や学校行事で、相手が嫌がる言葉づかい(ちくちく言葉)や言動をとらず、丁寧な言葉づかい(ふわふわ言葉)ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことの楽しさを知り、何でも興味を持って前向きにチャレンジすることができる。 ・健康な体づくりや自らの健康課題に気付くための知識を得ることができる。 ・何でも好き嫌いなく食べることが、体づくりに必要なことを知ることができる。
	4年 3年 2年 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にあきらめずに最後まで取り組むことができる。 ・手本をもとに、自分の思いや気持ちを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれの話しでも、正しい姿勢で最後まで聞くことができる。 ・授業における班活動や学校行事で、相手が嫌がる言葉づかい(ちくちく言葉)や言動をとらず、丁寧な言葉づかい(ふわふわ言葉)ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことの楽しさを知り、何でも興味を持って前向きにチャレンジすることができる。 ・健康な体づくりや自らの健康課題に気付くための知識を得ることができる。 ・何でも好き嫌いなく食べることが、体づくりに必要なことを知ることができる。

本年度の取組

重点目標

栃木市教育委員会指定「人権教育実践研究校」として取り組んできた昨年度の実践を基盤に、研究最終年のまとめを生かして、より一層小中教職員の同僚性を高めるとともに、児童生徒の人権感覚、人権意識を高める。
研究主題(学校課題)「主体的に学習に取り組み、生き生きと自己表現する児童生徒の育成」

取組内容(評価項目)

○物事を科学的・合理的に、根拠を明確にして議論や説明させる活動の充実
○物事を筋道立てて考えさせ、公正・公平に判断させる活動の充実
○特別支援教育の視点に立った授業の推進(U・D化の推進)

○道徳科やコグトレを中心に、相手の立場や心情を想像できる力を育成する。
○学校行事や地域との交流活動を通して、相手の立場に立って話を聴いたり自分の思いを伝えたりする技能を育成する。
○児童生徒間の合意形成を図る場を意図的に設けるとともに、そこで育てたい資質・能力を明確にする。

○自らのよりよい生活習慣を意識できる実践の充実と継続
○生活習慣や食に関するアンケートを共通で実施し、その結果等を保健教育に生かす。
※食に関する指導・保健指導関係…今までの取り組みを継続
○保健体育科は、小中の授業参観を行う。

成果指標

・学校評価アンケートにおいて、「粘り強く課題解決に取り組む姿勢」を問う項目で、両者の肯定的な回答が8割以上である。
・授業アンケートにおいて、「自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える力」等を問う項目で、肯定的な回答が8割以上である。

・学校評価アンケートにおいて、「とちぎ未来アシストネットを活用し、地域との連携を深めている」等の項目で、両者の肯定的な回答が8割以上である。
・学校行事におけるアンケートにおいて、「活動最中に相手の立場に立って考えたり、気持ちを想像した言動がとれた」等の項目で、肯定的な回答が8割以上である。

・学校評価アンケートにおいて、「『ノーマディアデー』『睡眠改善WEEK』が効果的である」の項目で、肯定的な回答が8割以上である。
・生活習慣におけるアンケートにおいて、「自ら行動することで、よりよい生活習慣が確立できたか」に関連する項目で、肯定的な回答が8割以上である。